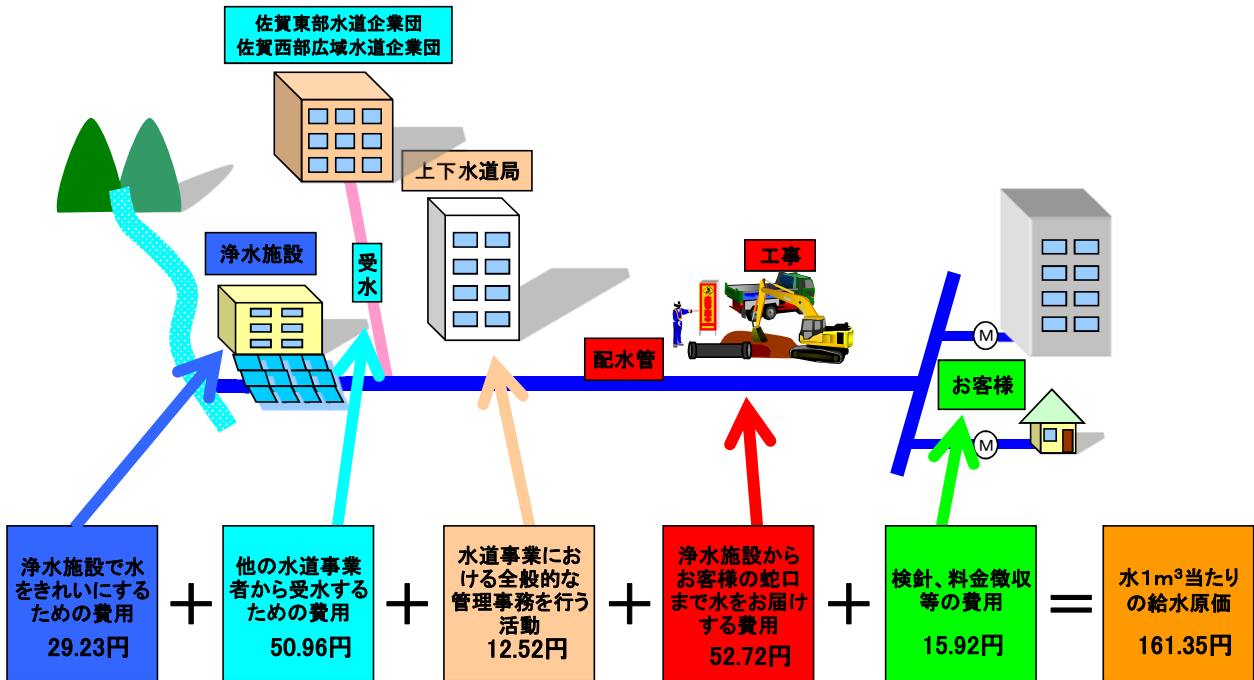


ABC分析結果（水道事業） （令和3年度現在）

※令和3年度決算（令和3年4月1日～令和4年3月31日）数値より

1. ABC分析のイメージによる結果

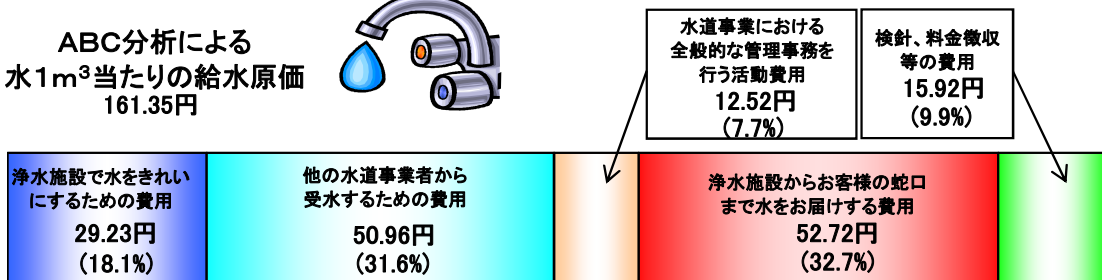


ABC分析給水原価(単位:円)

年間有収水量 20,325,839m³

	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
浄水施設で水をきれいにするための費用	29.23	594,068,990	18.1%
他の水道事業者から受水するための費用	50.96	1,035,893,046	31.6%
水道事業における全般的な管理事務を行う活動	12.52	254,356,945	7.7%
浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用	52.72	1,071,638,626	32.7%
検針、料金徴収等の費用	15.92	323,626,902	9.9%
計	161.35	3,279,584,509	100.0%

ABC分析による
水1m³当たりの給水原価
161.35円

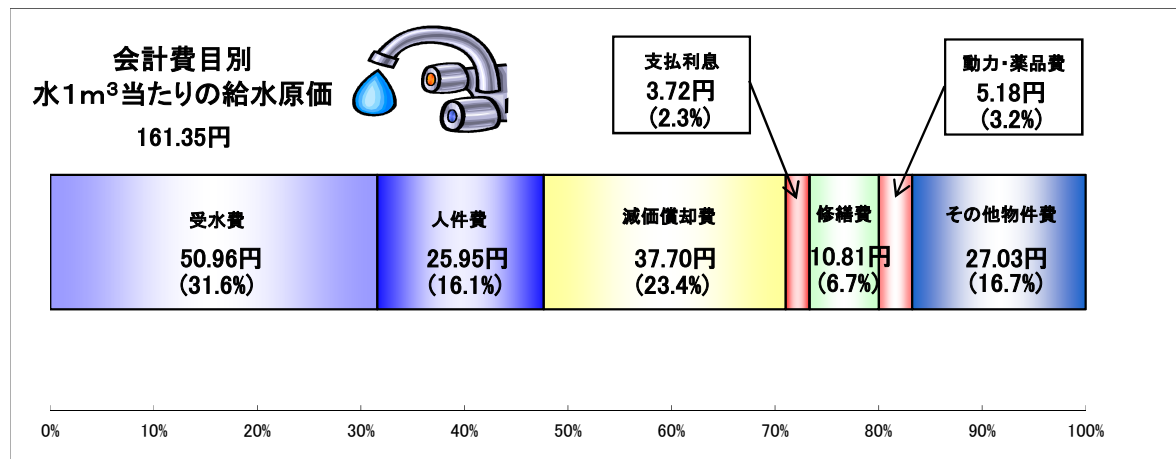


0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

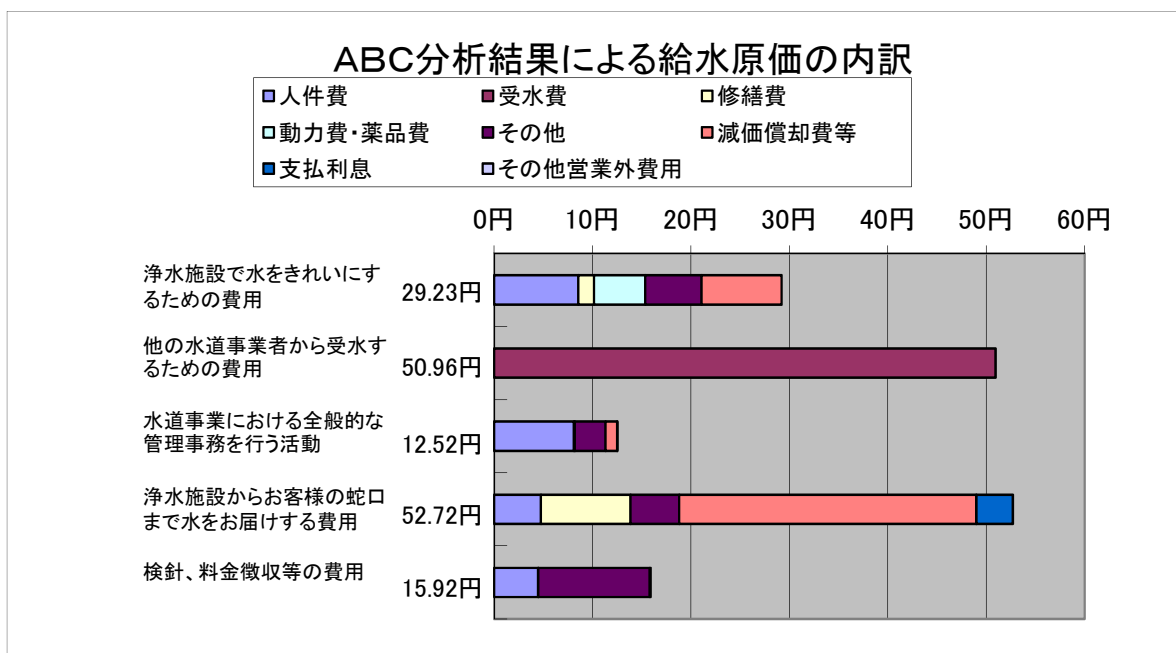
2. 参考

会計費目別給水原価(単位:円)

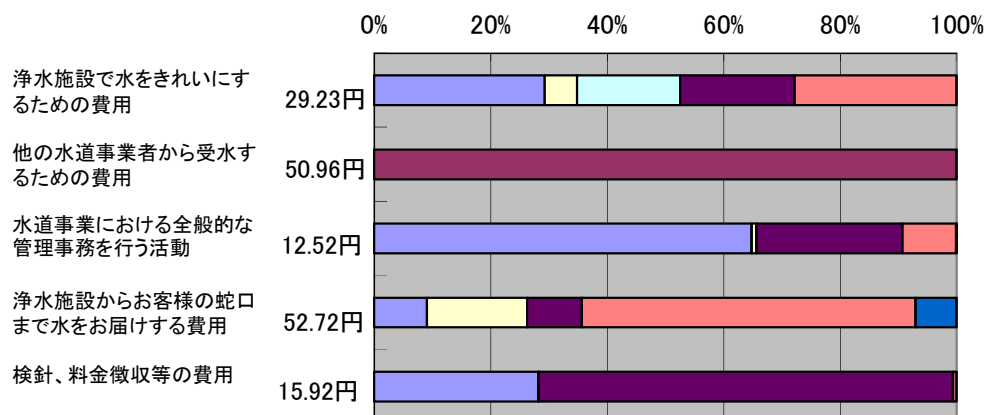
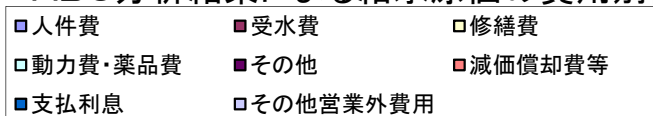
	給水原価(円)	税抜額(円)	割合
受水費	50.96	1,035,893,046	31.6%
人件費	25.95	527,365,623	16.1%
減価償却費	37.70	766,199,855	23.4%
支払利息	3.72	75,692,172	2.3%
修繕費	10.81	219,665,556	6.7%
動力・薬品費	5.18	105,316,420	3.2%
その他物件費	27.03	549,451,837	16.7%
計	161.35	3,279,584,509	100.0%



3. ABC分析グラフ



ABC分析結果による給水原価の費用別割合



【分析結果】

給水原価は本年度161.35円で、「浄水施設からお客様の蛇口まで水をお届けする費用」が給水原価の32.7%、「浄水施設で水をきれいにするための費用」が18.1%と、これらの費用で全体の約半分(50.8%)を占めています。また、「他の水道事業者から受水するための費用」が31.6%となっています。

給水原価を構成する会計費目では、受水費(31.6%)や減価償却費(23.4%)、人件費(16.1%)の順で割合が高くなっています。

水道事業は「装置産業」と言われ、資産のほとんどが配水・給水施設(お客様の蛇口まで水を届けるための施設)や浄水施設(水をきれいにするための施設)で占められています。そのため、これらの施設に係る減価償却費や施設の維持管理のための人件費、修繕費などの割合が高くなります。

今後も、施設の老朽化に伴う改築・修繕経費や、耐震化などの災害対策経費の増加が見込まれますが、安全で安心な水道水の供給を途切れることなく続けていくため、「上下水道ビジョン」及び「水道事業経営戦略」に基づいた効率的な事業経営を進めていきます。